



● 淀長立見席〈55〉

アメリカしょんべん 土産ばなし

淀川長治〈映画評論家〉



失礼さんでした。いやらしい題名をつけまして。二十三年まえはロスに四カ月とニューヨークに四カ月というようなシヨンベンよりすこしましな見物をいたしました。が今回は去る六月に十二日間。これではそう申させていただけかぬとテイサイ悪うてテイサイ悪うて。

しかしそのシヨンベン（うるさいねエ）旅行もこれで六回目。えらいもんで六回も重ねますとニューヨークへの旅もフクオカへ行くようなややほんの少し安定感をカシるものでございます。

ホテルは毎回「ワーウィック」と申しましてアメリカ通りの五十四丁目。五番街が歩いて五分の便利良き。ジグフェルド劇場が歩いて三分。六二〇〇人席のラジオ・シティ・ミュージック・ホールが歩いて十分。これではタクシー代が助かる。さもしい！

えらいもんで去年まではこのホテルは西洋人ばかりだったのに今年には二組の日本人紳士にお目にかかった。一組は時計屋さん。もう一組はオモチャ屋さん。ともに世界に名高き日本商品の会社のおひとたち。

さて、ジグフェルド劇場では「ザッツ・エンタテインメント2」上映。こんどは司会がアステアとジーン・

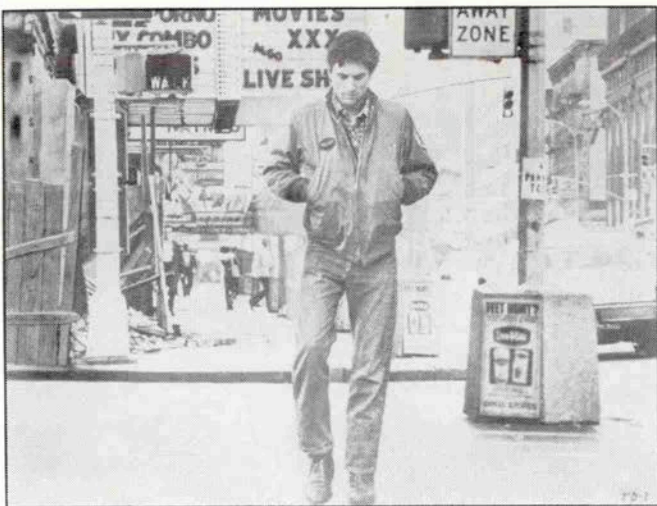
ケリー。二人が、今日の現在の二人がデュエットで踊るところがいい。アステアは七十七才。ジーン・ケリーは六十四才。この二人がほんのりとうす化粧。これがまたいいのだから。とにかくアステアはエレガント。ジーン・ケリーは腰ふり首ふり両足ガニマタのアクティブ・ダンス。この二人は両きよかつた。この二人がサツと揃って両方のセンスその感覚に見事染め合せての踊りがよかつた。

映画は十二日間に二十八本を見ました。感激はいろいろあつたが「タクシー・ドライバー」には泣いた。この主役のロバート・デ・ニーロがよくて監督のマーチン・スコシージがあまりにもよかつたからでありました。「ゴッドファーザーPART2」のロバート・デ・ニーロそして「アリスの恋」の監督のスコシージ。

ミュージカルを駆け足でやつと三つ見ました。「ア・コーラス・ライン」「パシフィック・オーヴァーチュアーズ」「ザ・マジック・ショウ」。舞台のシヨウのコーラス・ラインのダンサーたちのテスト風景ミュージカル「ア・コーラス・ライン」は涙ポロポロ（よく泣く）。あんまりにいいのだ。ダンスが巧い、舞台背景は上から

下までいっばいの大鏡四枚、さらに二枚が上から下りる十七人のダンスがその背景の鏡に見事に動く。しかもその鏡がとぎにゆるやかになめらかに動くのでダンスは三重四重にかさなまってゆく。そんなことで泣いたのではない。ダンス・レッスンのきびしさとそのダンスのステップのいきな見事さに涙があふれました。

「パシフィック・オーヴァーチューアーズ」はニッポン



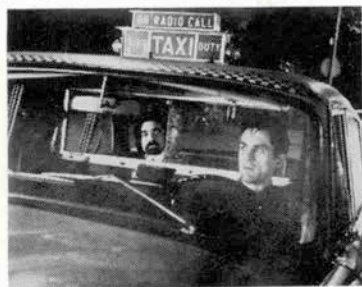
「タクシ・ドライバー」で主役を好演するロバート・デ・ニーロ

人の一〇〇人が見て九十九人までがファンガイするミュージカル。残りの一人は感心しきって唸る一人。私はその九十九人でない方の一人でありました。下田の役人が出るジョン・万次郎も出る、生麦事件あり黒船渡来で天皇まで登場のこのジャパニーズ・ミュージカル、ペリーもアメリカ水兵もみんな日本人か中国人、二幕二時間二〇分。そのショー展開の見事さ面白さ。岩松マコト(マコ)

が狂言廻し。「ウェスト・サイド物語」「屋根の上のバイオリン弾き」のプロデューサー(ハロルド・プリンス)はこの冒険をことし一月半ば幕を開けてからついに今や私

の見た六月にはウインター・ガーデン劇場は超万員。「ザ・マジック・ショオ」はすでに二年目のロングラン。美人胴体切断で箱の女を切つて離れた方がいいがショオの連続でこの箱美人のアタマとハシを箱のまま右と左のカミテとシモテに引き去って二つのショオが終つて気づいた奇術師があわててその首その足を再び舞台に呼び出すと美人の首が首をガタガタさせて(あたいの足、どうしたの!)というわけで、あわててその箱パツと合せてサツとび出す美人の笑顔でなそのショオ振りがうまかった。場内は親子連れでイッパイ。

あんまりいろいろと見つけてホテルでのびた。するとアレも見なさいと命令。何ですか。アドルト・ピクチュア。もうたくさん。去年はマルマルカットナシの「デイープ・スロート」見たじゃんか



筆者は感激のあまり泣いたとか……(同映画より)

と泣き顔したら、こんどはオール・マイルですとニヤリと笑う。男ばかりの強れつボルノ。ニューヨークは目抜き通りにこれが堂々の上映。イヤだイヤだはねつけながら心の中ではゾクゾクの楽しさでその二〇〇人ばかりの映画館の中を手さぐり(まっくら)ではいるや、やおら客席が目に見えてそれがたつたの四〇人くらいで、さて目の前の画面はと見るやこれはまあ男性自身がピンと起立のクローズ・アップ。十分で逃げだしましたがその十分間に見たところだけでもソートーのもの。お聞きになりたい人は私にちかに。聞きチン。一万円。

女体百景

△49▽

文・細川 董^{ただす}

え・浅野 俊一

マシマロの女

顔がいいから女がいいとは限らない。そんなことは、女体百景の読者なら、百も承知の筈だ。

例えば、鼻筋が通って目元、パツチリ、如何に顔形整えども、身体すじすじ、触れどさわれど、キンキンコンコン、女のやわらかみもくそもあったものではない。

さわる気も、抱く気もせぬではないか？ 要は、女体百景女の焼肉にも、“スジ”もあれば、“み”もあり、“タン”もあれば、“ロース”あり、はたまた“ヘレ”もあるのだ。

通り一辺顔の美しゆうにまどわされるべからずである。人生の不幸ですぞ！

ものは試し、なるべく顔のまずそうな娘のいると覚しき“オサワリサロン”へ御出げきの程を！

髪もくしを入れず、ジャンパーに、出来れば長グツスタイトルをよしとするから念のため。外観は意外と大切に身を下賤にやつす程、さわり易いのである。そして望外の掘出し物を発見することもあるのである。

その夜、それは一瞬の出来事だった。

女の二の腕を握った私の手は、そのとたん、あまりのやわらかさに驚き、女への期待に、胸もはりさげんばか

りになった。

実に驚くべき発見だった。

私の指先は、どんどんと、見さかしく女の腕の肉の中へ、もぐり込んで行くのである。いくら深くくい込んでも骨にぶち当たらないのである。

私の指先は、女の露わな腕から更に、ひざ、太ももの外側から下部へ、そして更に内もものつけ根の最も秘めやかなかげりの奥の部分へと移動して行ったが、指先の受けるソフトな感覚は全く変らず、一向に“硬さ”などというものにはぶち当たらないのである。

私は、生れて始めての感動に打ちふるえ、指先はもう陶然となつてしまつていた。

私はその時考えた。これは何だど。

こんな肌の女は、私はその夜まで、まだ知らなかつた正に、冷ぞう庫で冷やした“マシマロ”にふれた時の感触だ。俗にもち肌というのがある。しかし、これがもち肌だといわれて抱いた女の体にも、何らかの抵抗の芯はあるものだ。今夜の女には、それが無いのだ。無気味なほどやわらかく無抵抗な肌である。

△今夜は一つこの女と寝てやろう！▽

そう思つて、私は、私の顔に、かぶさる女の顔を横目でチラリとのぞいた。

女は、私にさわらせながら、歯を出して笑いを浮かべ、シワガレ声の下身な口調で同席のホステスに話しかけている。暗くて顔はハッキリしない。年令の分らぬ顔だ。

美人ではないが、みられぬ顔でもなさそうだ。相当年はとつてゐるらしいが、若く見える顔だ。ヒタイが広く目をむいたタマゴ顔だ。入れ歯のせいか口元が不潔で気にかかると。

私を入れて男三人連れの中、一人にはまだ女が来ずそれをひやかして、二人のホステスは、下身な手まねで「白け鳥」を連発する。しまいには、鳥が飛んでいる仕草までして笑いころけてみせる。

「私達を指名本番にして、色々料理を注文してくれたら

ずつとあんた達のそばにいてサーヴァイスしてあげられるのに！」

と、女達にいわれて、

「何でも注文しなさい。いいですよ！」

と、私の友人がOKしたとたん、

「ちよっと先礼！ すぐもどってくるわ！」

と、身をひるがえして、女達は一人去り又一人去りどっかへ行ってしまった。

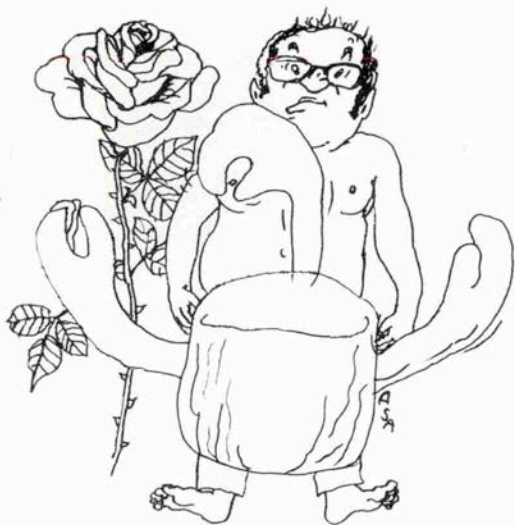
「ホステスさん！ホステスさん！上手に廻って下さい！」

と、あからさまに、マネージャーがマイクでホステスに呼びかけている。

閉店間ぎわの、通称「オサワリサロン」は客がたて込んで女が足りないのだ。客席から客席へとホステスをタライ廻ししているのだ。

「この店に、女がおると思とんのか？」

と、自嘲気味に、酔った新しいホステスが私の連れのところへやって来るなり



「私、こんなタイプの男好き！」

と、いきなり彼の首に手を廻して、ほっぺにキスをした成程、相当ひどい女ばかりである。ますますマシマロ女が貴重に思えて来る。

やっと料理が運ばれて来た頃を見計って、マシマロ女が席へ戻って来た。

私は「ヒ……」と笑いながら、手は早速彼女の下の谷間をまさぐり始めていた。

「この人面白い人やわ！ヒ……やて、女みたいな面白い方しよる！コラ！コラ！コラ！」と、彼女は叫んだ

と、その瞬間、私は右乳房（私は太っているので、私の乳房は少女ぐらいふくらんでいる）に激痛を二度三度覚えた。

マシマロ女は、目に止らぬ早業で私のおちちをつねったのだ。

「イタイイタイ！」

と、私はその度にお乳をおさえて飛び上り、またヒ……と笑った。女は一向に止めない。

「面白い人やわ、この人！」

といいながら、今度は「コラ！コラ！コラ！」と叫びながら、逃げる私の下の器官めがけて、つねり攻撃を開始した。それはスゴイたい風の如き早業のパンチングだ。

「イタッ！ イタッ！」

マシマロのどこにこんな力がひそんでいるのである。私は、ほうほうの態で店の出口へ急いだ。後から彼女が追って来た。外は無情の雨が降っていた。

気をつけねばならぬのは、バラの堅いトゲばかりではないのである。

〔追記〕

前号所載の「未来を先取りする女」は、新しい私の哲學的美學の解釈に基いた幻想的作品にて、読者諸賢には登場個人名に対する誤解を招かれることなきようお願いいたします。



ぴっと・いん

★初夏の塩屋でシーサイド
カーニバル開催

六月二十日、シーサイド
クラブ・パレス塩屋が開店
二周年を記念して「ビュー
ティフルノシーサイドカー
ニバル」を開いた。



大いに賑わったパレス塩屋

当日は、好天に恵まれ、
金魚すくい、ヨーヨーつり、
輪投げなどのコーナーもあり、
近くの施設「塩屋少年
の町」の子供たちが招待さ
れて大喜びだったが、この
日のメインは何といても
恒例のヨットレース。今回
は三十のヨットが覇を競つ
た。塩屋の海に色とりどりの
スピンの花が咲き、海岸

では海水浴を楽しむ親子づ
れの姿も見られ、夏らしい
光景が繰り広げられた。夜
は専属バンドのバックによ
ってゴーゴー大会。まつり
はいよいよ熱気を帯びて来
た。なお次のヨットレース
は九月に予定されている。

11・00 A.M. 11・00 P.M. 年中無休
神戸市垂水区塩屋町字高尾(第二
シーサイドパレス塩屋)
番七五三—一三七三

★ティファアナの姉妹店が
京都にオープン!

メキシコ料理のティファ
ーナ(生田区中山手通1、
番242—00四三)のフラン
チャイズ店が、ティファ
ーナの新開氏の学生時代の演
奏グループ「ベサメントス」
の仲間、別所邦夫氏がマス
ターとして6月1日、京都
比叡山登り口にオープンし
た。このメキシコの港町か
ら名前をとった「ベラクル
ス」はメキシコ料理とテキ
ーラ、そしてマスターとチ
ーフのコンビ「ロス・ペラ

クルス」の演奏が楽しめる。
ティファアナ・フアンの皆
様、京都に行かれた時には
ぜひお立ち寄りください。
ベラクルス 京都府左京区北白川
大堂町8 番(075) 7211-5
803

★トック・リヨンでポトル
・ソントノ!

「キヤトジュエノア・ポト
ル・ソントノ」とパリ祭の
七月十四日の夜、フランス
料理「ビストロ・ドウ・リ
ヨン」



山崎良平さん(シエ
フ山崎
良平)

が「ト
ック・リヨン」と名附けた
優雅な部屋を増設した。40
名の会食可。

生田区山本通2丁目40ノ1 番07
8(221) 2727 A・M 11
P・M 11 ビストロが家庭料理にな
りました。

★サン・テリカでカズ(中
川宗和)に逢いましょう

ピアノの中川宗和さんが
待望の Sun Delta サンド
リカに七月八日から出現!
一階はバーラーで、サラダ
のバイキングにホームメイ
ドのパイでお茶と女の子
向きの。地下のデリカインは
カズのピアノバーがあるア
リアメリカサロンなのだ。
だ。

生田区中山手通1ノ90 互島ビル
(北野川通り) 番392—11434

●神戸うまいもん
とドリンキング
サロン

アルバトロス
生田区中山手通一丁目二四一七
大和ナイトブラザ2F
番二二—一三三〇〇

市街地の雑踏を離れ、
北野坂のあたりには、最
近、神戸らしいムードの
ある店が増えて来ている
が、そのなかでもハイセ
ンスなジャズの店として
今年で七周年を迎えるの
が「アルバトロス」。

毎夜、八時から十二時
まで、鍋島直釈(ピアノ)



ステキなムードがいっぱい

田中政好(ベース)、竹内
郁夫(ドラムス)のトリ
オが素敵なスタンダード
を聞かせてくれる。また
滝恵里子のボーカルも雰
囲気を一段と盛り上げて
いる。また、九月には六
本木の東京店もオープン
する予定である。

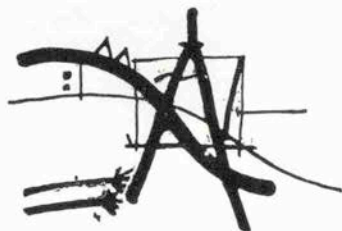


ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL (341) 7290

額縁絵画・洋画材料 室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北
トア・ロード
331 1309・6243



靈感占 吉川万里子

〒658 神戸市東灘区住吉宮町6丁目14-12 東京堂ビル1階
(国鉄住吉駅下車南 住吉神社前) 日曜定休
電話 (078) 811-6790 番

ヨーロッパ直輸入ソワンエステ・ティック研究所
(整肌美容) で美しく変身しませんか



ソワンエステ・ティック



研究所

所長片岡 和子

神戸市灘区二宮町4丁目10-1
松井診療所2F ☎078(241)2209

残暑お見舞申し上げます。



今年も、ユーハイム・コンフェクトの冷菓をよろしく

北 欧 の 銘 菓
ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市灘合区熊内町1-8(市立美術館東隣) TEL.221 1164
■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸アパート・元町店

おすし
てんぷら



崇
彌



本店 大丸前・三宮神社東
TEL(331)5772
567314
(毎週水曜日休み)
支店 さんちか味ののれん街
TEL(391)5233
(第3水曜日休み)

営業時間
A.M.11.30~P.M.9.00

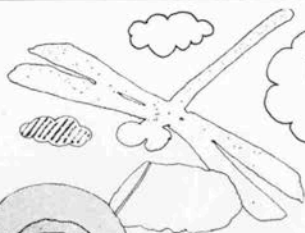
やっぱりうまい
むさしのとんかつ

とんかつ

ユーハイム
ムサシ

でんわ・三宮
321 321 331 三三七七一
〇六三四

321 321 331 三三七七一
〇六三四



聞こえてるよ
元気な声が。

よい子のともだち
夏も

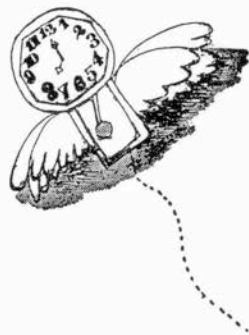
おもちゃの

カメラ



三宮方面でのお買物は…
さんちか店 ファミリータウン ☎391-4045
三宮店 センタープラザ1階 ☎331-4969
元町方面でのお買物は…
元町店 元町通3丁目山側 ☎331-0090
パンブウ店 元町通1丁目不二家前 ☎391-0768
神戸駅前方面でのお買物は…
サンこうべ店 神戸駅前地下街 ☎351-6002

神戸百貨会 だより



★秋のシーズンへ向かって 結婚フェア開催

オリエンタルホテルではさる7月10日(土)・11日(日)の2日間、結婚フェアを開催。招待によるこの試みは初めてで、婚約から結納、挙式、披露宴、ハネムーン新婚家庭のことまで何でもわかるということで、一日のプログラムには、花嫁着付シヨウ、ハネムーン映画、交通公社によるハネムーンの説明、フアッシュョンシヨウなどが盛りだくさんに組み込まれており、神式、キリスト教式の模擬結婚式では、みんな緊張した



模擬結婚式も行なわれた結婚フェア

顔付きで見入っていた。11日には藤本義一氏による記念講演もあり、若い結婚を直前にひかえた女性が多かったようだ。中には婚約中のカップルも少なくなく、「この企画は親切でゆき届いていますね。予備知識が得られるし、良かったです」との感想。会場に設けられた展示・相談コーナーで熱心な説明を聞く親御さんも多かったようだ。百貨会からは、美容室エリザベス、つるや衣裳店、中川衣裳店、風月堂が協賛して、花をそえた。

★香りのオシャレ—— ワッカルカナア?

七月一日より十五日までバラエティショップベニーでは、「香水フェア」を開催しました。三千円以上お買い上げの方に、一等より六等までの豪華景品があったとあって大人気を呼び、ミセスから紳士まで熱心に



熱心に説明を聞く女性たち

一流ブランドの香水の説明に聞き入っていました。日本人には自分の香りを決めている人が少なく、折角上等の香水をもらっても使わない人が多いようです。使ったあとウイスキーか酔をビンに入れて飾っておけばいいんですよ。」とお店の人の話。洋服ばかりでなく香りについても、もっと知識を身につけたいものですね。又ベニー毛皮店では十六日より月末まで「毛皮フェア」を開催します。秋・冬に備えてお買得の毛皮がたくさん出品されました。ベニーでは保存管理してくれるので安心してお買い求めいただけます。

★秋にはジャケットが主流

ベニヤエルペ店ではこの中旬から秋・冬の入荷が始まりました。傾向としてはジャケットが主流で、素材はコールデュロイヤリパーシブルが人気を呼びそうです。店長さんの情報です。

● ショップトピックス

★本月はゴルフ特集でしたが、神戸の街にはおしなれなゴルフ仲間が多いようです。

な元町三丁目、フナキヤ、二丁目のウネ、大丸前のマキキョリなどに豊富に揃っています。大丸前のヨシオカでは紳士、婦人ゴルフ靴をオーダーできます。

★神戸阪急三宮楽天地の竹葉亭では七月二十四日、土用丑の日、名物鱈蒲焼が大盛況でした。疲勞がふきれない夏、たまには栄養豊富で珍重な味覚を楽しんで、体力づくりにがんばりましょう。

★頑固に品質を守り続けているUCCコーヒーでは、この夏1缶を新発売しました。のどを潤したい時にグッと一缶飲みほして下さい。自信を持ってお勧めできる新しい味をお試し下さい。

★スペイン料理のカルメンが、都市計画のため立ち退き、北隣に新築して、七月十一日、新たにオープンしました。このお店はマホガニー色を主体とした格調高いクラシックな雰囲気、デザートなんかはピツタリ、お値段は前のままです。いいのもうれしいですね。営業時間 正午より九時半まで

★夏の夜の楽しい催しをもう一つ御紹介。一度ハワイへ行かれた人ならきっと懐しくなるハワイアンフェスティバルが八月一日〜二十八日まで北野クラブで開催されます。この期間中には三千円と四千円の特別ハワイ料理のメニューが加わり、六、七、日、二十八日にはハワイアンダンス、ポリネシアダンス入りのビッグショーが生演奏と唄入りで開かれます。

ポケットジャーナル



★神戸にふさわしいあなた
の作品を求めます。

「コウベ・フアツション
デザイン・コンテスト'76」
の応募要項が発表された。
応募区分 秋・冬物(婦人服・子供
服・紳士服)
※服の種類は制限はありません。
応募資格 制限はまったくありません。
どなたでも自由にご応募下さい

- 応募方法(第一次審査)
1. 未発表のオリジナルデザイン画
 2. デザイン画はB4の大きさ(ヨコ257mm、タテ364mm)の用紙1枚に1点(婦人・子供・紳士服の各区分ごとに)1人3点以内
 3. デザイン画には
 - ①色柄を着色
 - ②帽子、アクセサリ等を記入
 - ③生地見本を画用紙表面の右下に貼付
 - ④服の種類、デザインの意図を簡単に記入
 - ⑤裏面に応募用紙を貼付
4. デザイン画は一切返却いたしません。
- 応募締切日 昭和51年8月25日(水)必着

入賞と賞金
神戸大賞(1名)賞金20万円・トロフィー・副賞 受賞者にはエールフランスより東京―パリ間往復航空券が贈呈されます。
金賞(3名)賞金5万円・盾・副賞
銀賞(6名)賞金5万円・楯・副賞

銅賞(10名以内)賞金3万円・副賞
佳作(50名以内)賞金1万円・副賞
詳細は神戸市田区加納町6丁目7・神戸市経済局庶務課、コウベフアツションデザインコンテスト係
TEL(078)33111013

★神戸J.C.がパネルディス
カッションを開催

七月五日午後六時三十分
から神戸文化小ホールで社
団法人神戸青年会議所(小
林博司理事長、会員三百人)
主催のパネルディスカッ
ション「我が町 神戸の将来
を語る」―経済と市民のく
らしはどうあるべきか―が
開かれた。



パネルディスカッションの様相(7.5)

これは、地盤沈下が叫ば
れて久しい神戸経済を建て
直すには、どうすればよい
だろうかということを、知
識集約型産業の育成、地場
産業の育成、ポर्टアイラ
ンドの利用計画、都市の再
開発などの視点から語るも
ので、パネラーとして、坂
井時忠兵庫県知事、佐野雄
一郎神戸市助役、神戸市出
身の国会議員―石井一(自
民)、河上民雄(社会)、浦
井洋(共産)、渡部一郎(公
明)の各氏が出席し、コー
ディネーターには豊喜武治
神戸新聞社論説副委員長が
当った。

明るい豊かな社会の建設
に少しでも役立てば―とい
う趣旨の下、三百人が参加
したが、神戸J.C.としても
初の試みだけに、ディスカ
ッションの展開も十分とは
いえなかったが、主催側と
しては、会場参加者からと
ったアンケートをもとに今
後の活動に生かして行く方
針である。

★ブラジルで大活躍の

若林和男さんお帰り
「わかりやすい抽象絵画
で、ブラジル代表としても
数々の国際展に出品、今回
も大作が多いですよ」とは
伊藤誠神戸新聞事業部長の
話。

誕生日
ありがとう



あなたの愛の手で
古切手に新しいいのちを

あなたの家庭や会社で、古切手
(使用済)が、捨てられています
んか。
もし捨てられているようでした
ら、これからは捨てないで残して
いただけませんか。

本運動では、みなさんからいた
だいた古切手で、運動推進の費用
としていきます。みなさんのあたた
かいお心によって、古切手を社会
福祉のために役立ててください。
古切手は

○周回約一センチ程度残して切り取
ってください。

○使用済の日本・外国どんな切手
でも結構です。

○左記の運動本部へ郵送か持参し
てください。運動参加のカード
を送ります。

あなたも、あなたのまわりにあ
る古切手にハサミをいれるという
行為を通じて、なにげなく捨てら
れていた古切手に新しいいのちを
与えてください。そして、みなさ
んの手を架める福祉のこの運動が
ご参加いただけますよう、おねが
いいたします。

誕生日あがりどう運動本部

〒六五―

神戸市善合区御幸通八のの一の六
神戸国際福祉一階の郵便局の前
電話二五一―八六一内三二六

15年ぶりに故郷神戸で個展(大丸4F美術画廊)にて10月21日(26日)を開くと、若林和男さんが9月13日に帰神予定。今の仕事ぶりを故郷で見てもらおうという展覧会が目的の今回という展覧会が目的の今回の帰神に、知事、市長はじめ昔なじみの友人が今から首を長くして楽しみに元氣な顔を見れるのを楽しみにしている。

★祝一路平安亀井一成君!
「ほくはキリン、名前はまだまだない。天津の人がカンカン、ランランに負けない愛称をつけてくれる……」



請願請去吧

出発が、延び延びになっていた王子動物園のキリンのオス(生後一年半)が17日早朝「風展号」で天津へ旅立った。日中親善の大役を果たすため、妻鹿敏治園長、本誌に連載中の「動物園飼日記」でおなじみの亀井一成学芸員も同行した。両氏は天津の動物園へキリンを寄贈したあと各地の動物園を回って珍しい動物の数々を見学したあと、八月十日頃帰国予定。

★神戸YWCAで「アメリカ講座」開かれる

アメリカ建国二百年。神戸YWCAでは、アメリカの実像と虚像を若者の姿を通して探ろうと、5月28日から7月2日まで五回に分けて「アメリカ講座」を開催し、約三十名の若者が参加した。

講師には、山口光湖神戸女学院大教授、中島和子桜美林大助教授、武田建閣学大教授、片桐ユズル京都精華短大教授の四氏が担当してアメリカの労働問題、黒人問題、音楽、文学にわたる、レコードを聴き、フットボールのビデオを流してのユニークな講座となった。また最終日の7月2日は「私にとってのアメリカンミュージック」と題し、受講生の意見発表の日としてアメリカ音楽を語り合った。そしてこの講座に参加した若者たちは、今後ともアメリカを共通とするグループとしての活動をすすめていくこととの結束を固め、ユニークな講座の成果を収めた。

★現代のドン・キホーテ「スペインわが愛」出版

南欧文学に心酔するのあまり、スペインに滞在してドン・キホーテの道を歩いた——姫路の船地慧氏が

まだフランコ總統健在の頃のスペイン(一九七三年)の旅を「スペインわが愛」(三一書房刊)という本にまとめられた。

「ひとが愛するものを語る最上の仕方は、あっさりと言語することだ。ピカレスク文学を志すべくにとって、スペインは恐らく果てることのない関係をもっており、またそのためにぼくの愛は旨いた過剰なものにもなる」——あとがきより。

この本は、また、兵庫県の中国縦貫道路完成記念の「緑の回廊フェスティバル」と期を一にするものから、協賛出版となっている。

★父と子の博物館」出版

貴重な全国の博物館廻りのガイドブックである。この種の本が今頃出版されるとは文化国家が泣く。小型万国博といわれる博物館が先進国の日本にいくに少な



父と子の博物館

いか、また、国民の認識のいかにないか驚く次第だ。本書には、必要な案内図開館時間、料金、文献などが編集されているので、夏休みには本書片手に博物館

美術ガイド



★南蛮美術館
館蔵品のあらまし 7/31/8/25
★兵庫県立近代美術館
76 展覧

★大丸神戸店美術画廊
沢野井信夫・楠木恵吉二人展
8/12/8/16

日本画・洋画特別展
巨匠名画巧芸展 8/19/8/24
★そごう神戸店美術画廊
洋画秀作50連展 8/6/8/11

日本画・洋画週末奉仕会
平岡甚一郎・山本仁吉二人展
8/20/8/25

★三越神戸店3階アートギャラリー
日仏作家世界の版画フェスティバル
8/3/8/15

油絵特集展
8/17/8/31
★KCCギャラリー
KCC教養会会員作品展
8/1/8/21

関西学院大有志絵画展
甲南女子大学美術部展
8/22/8/28

★KCCアートギャラリー
久本弘一展
8/1/8/14

★さんちか広場
第13回さんちか古書展
8/12/8/16

直輸入盤レコードフェア
第10回民芸書畫世界の旅
8/19/8/24

★ギョーリさんちか
神戸大学美術科22回同窓展
8/12/8/16

新協美術神戸写真部委員展
8/19/8/24

宮下貞之介遺作展
8/26/8/31

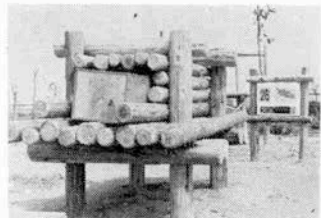
廻りをすずめる。

監修・樋口秀雄、加藤有次、企画編集者・株式会社盛電社、発行所・株式会社富士書店、定価一五〇〇円。抽選によりこの本を五名様にお送りいたします。お申込みは編集室まで。

★緑いっぱい ジャンボな

「関西グリーンセンター」

幸せは花と緑のある家庭をキャッチフレンドに緑づくりに取り組んでいる「みどりの農協」(兵庫中央緑化農業協同組合・日高宗敏代表理事)が運営する「関西グリーンセンター」が兵庫加古郡稲美町に七月十八日オープンした。



フィールドアスレチックの中のようかん押し

場や団地などの緑化事業も請け負うユニークな農協で「関西グリーンセンター」に緑化流通センターとしての施設(造園芸商品販売コーナー・盆栽即売場・樹木即売場など)を設備している。

またこの花と緑と、湖の

花時計



★百万人の須磨海水浴場

「須磨の浜で泳いできたよ」といったら大阪の友人が不思議そうな顔ををした。「大阪湾では泳げるどころなかないよ」というのである。

ところが、神戸の須磨はちがう、むかしよりは砂浜が広くなり油も浮いていないと説明したが信

じて貰えなかった。

実際、7月18日の晴れ間に須磨海岸に家族ぐるみで泳ぎに行った我々は驚いた。むかしに勝るすばらしい、海水浴場が復活しているのだ。

それは、むかしの海水ほど透明というわけにはいかなかったが海水浴に適しているかどうか化学的にチェックされているので大丈夫なのである。砂浜は広く遊泳に対する配慮も現在の方が適切である。しかし、この須磨海水浴場の復活には涙ぐましいほどの努力が秘めら

ように大きく美しい池に囲まれたジャンボな自然環境

のなかに、緑とスポーツによる健康づくりを目指してファミリーで楽しめる当センターには、ユニークなスポーツ施設が併設されている。広々とした人工芝のプールサイドが自慢のグリーンプール。ジャングルサーキットや砂と水の遊び場のあるキングダーランド、コート四面、全天候型のテニスコート。その他ちびっこゴルフ、フィールドアスレチックの諸施設。大人も若者も子どももみんなが気軽に楽しみながら健康づくりを……という諸施設である。

れていた——

それには、須磨の海浜を美しく保とうとする市民のいろいろなグループの協力。何んとか大阪湾で唯一の海水浴場を、砂浜を確保したいという市長をはじめ行政の担当者いろいろな角度から研究され調査され市民の協力も得て美事に須磨の海辺を復活させた。そしていま百万人を超える人が海水浴を楽しむんでいる。

利用する市民にも「日本一の海水浴場をつくるために心して楽しもう」といいたい。

△Y△

KOBE POST

★丸本耕、中西勝、西村功、藤原向意、山田恵三、山中馨、佐藤原各氏を輩出した武蔵野美術大学の関西同窓会が8月30日午後6時の関西同窓会パーティーを、ムサビ出身の方は、是非ご出席を。

★毎日新聞神戸支局長の松永俊一さんが七月一日付をもって、大阪本社社会部長に栄転された新任に、藤原茂一さんが神戸支局長に着任されました。

★神戸大学教授の小島輝正氏が、二回年一回岡本梅林宅から、御影岡ヶ森に住居を移されました。新居〒六五八神戸市東灘区岡ヶ森四丁目一八〇三七番〇七八(八四二)七九二。



★工芸作家八七宝の小野真須美さんが、第一回アメリカ七宝国際展(招待展)に日本よと一〇五人応募、小野さんを初めとする二十人が入選。アメリカ西海岸近小野真須美さん一才美術館で開催される「エナメル・アート・フェスタ」にて。

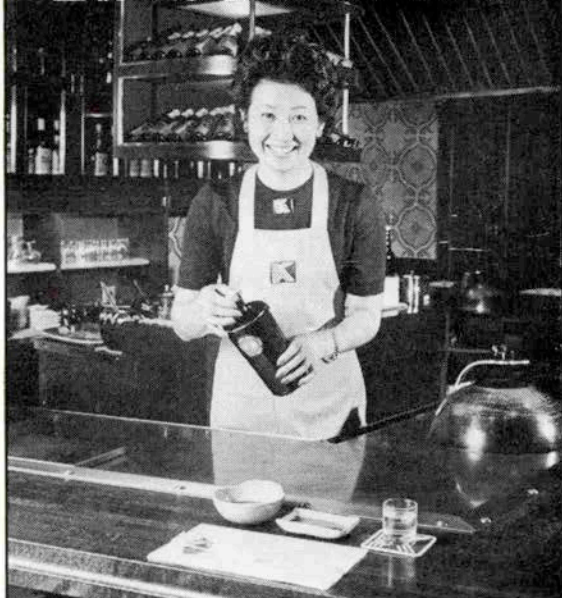
★宝塚市が、九月二日から十一日迄開催され、参加する。内容は「アメリカ作家の歴史」。「世界の招待作品展示」。「現在の作家展示会」。「アメリカからの日本招待出品展示」など。

★造形の福田武さんの仕事場が転居。新住居は大阪市南区長堀橋筋一丁目一番地長堀東4F(〒五二四二)K 福田武環境デザイン研究所(〒六二五)〇〇一五。

★生産の灯の帯纏った聖夜の滝現代俳句の『青玄』の皆さんが、俳句現代派風土俳句集「神戸」三木、篇を伊丹文庫書安俳句会より発行されました。(尼崎市南塚口町2-1-22) ¥5〇〇

★近畿日本ツーリスト(日本観光文化研究所)TEL〇三三(八三三)〇九八)が発行している、あるくつるきく「NO.一」に、神戸特集「脚の端から神戸を見れば」堀田忠義著にては神戸の山口一味連った神戸庶民誌を一誌を、

立杭の徳利入がうれしいワ



●小鼓と神戸の有名店シリーズⅣステーキ&ドリンクス神戸館
鉄板の上でジューッと焼ける最高の神戸ビーフのホンモノの味。美人の北村ママの手になると、なおのこと美味しい。そこによく冷えた小鼓が登場。う～ん、美酒、美食、美女と三拍子揃って言うことなし！
小鼓は神戸ではそごう百貨店にて販売しています。1.8ℓ入1330円。風趣ある立杭焼の徳利入も、お土産に最適です。女性のためにマロンキキュールも発売中。夏は冷やしておめし上り下さい。

丹波の地酒 美酒「小鼓」

西山酒造場

氷上郡市島町中竹田1171

☎07958(6)0331

通信販売もいたします。お気軽にお問い合わせください。

本行の味はここから

日本海直送の

活魚
料理

日本海でとれた新鮮な旬の魚を直送便で……その魚を皆さまのご注文に応じて熟練の調理士が盛りつけます。

お1人さま 3,000
～ 6,000円



日本料理の店



妻沙羅
ばさら

電話(078)321-6363

神戸・三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F



サント・ピクトワール山をバックに筆者、
ただし残念、山頂は雲の中

□ひとり歩きのためのヨーロッパの美術館〈7〉 南仏セザンヌ ルノワール

伊藤 誠

(神戸新聞文化事業局第一部長)

来た山が、やがて斜め後ろへ去って行く。雨が降っていないければ、どこかへ車を止めて、あの山とじっくり対峙したいのだが。「もっといい場所へご案内しますよ」S氏は自信たっぷりである。

エクス街へはいるころから雨も上がって陽がさし始めてきた。この市には、やたらとプラタナスの並木が多い感じで、ミラボー通りとかいう五〇〇坪ほどのメイ・ストリートは、両側の大きな並木がちやうど枝を出し合い繁った葉で高い屋根を造っているようなありさま。ふと「杜の都」という言葉が浮かんで、日本のその形容詞を持つ都市のイメージからか、学都、学生の街といった雰囲気を感じた。ともかく、しっとり落ち着いたいい街だ。紀元前一二二年、ローマがこの地方で最初に建設した町というから、歴史に申し分はない。そのことと直接関係はないけれど、セザンヌの一族もイタリア

の出だ。

静かないい街——には違いないのだが、驚いたことにミラボー通り付近には駐車場の余地が全くないのである。通りの両側はもちろん、横町にも車がギッシリ。もともと、目的が街の散歩にあるわけでもないのに、まず山を見に行こうと郊外へ。ミラボー通りのプラタナス並木を小型にしたような通りを幾つか車で抜けて町はずれの小高い丘へ来ると、見える見える、セザン

南フランス・プロバンスは、一年を通じて雨の少ない地方だと聞いていた。が、知人S氏の運転する車で、セザンヌゆかりの地エクス・アン・プロバンスを訪れた秋の一日は、ちやうど日本の梅雨のように降ったり止んだりいうつとうしい日であった。S氏はニース在住の日本人。ニースは同じ南フランスながらイタリア寄り、コートダジュール地方の中心都市である。両市を結ぶ高速道路はなかなか快適であったが、日本のそれとは少々違って車の数がうんと少ない。対向車もたまさか。慎重運転のS氏だけに時々横をビュルンと追い抜いて行く車もあるが、ほとんど二人の乗った一台だけが淡々と突っ走っている格好。道路の両側にしばらくは家らしい家もない。

さて、どれくらいの間飛ばしたのだろうか、斜め前方にそれらしい山影が見えてきた。雨はまだパラついていくけれど、それでもいつときよりはだいぶ明るくなってきている。うまく見えませすように、晩年のセザンヌが数多く描いている、あのサント・ピクトワール山。

山は、車のフロント・ガラスの中で徐々にその大きさを増してゆく。近づくにつれ雲が頂を覆い始めた。すっぽりと被る。が、それも流れて山頂が見えた。平べったい感じの、がっしりした山だ。真横に

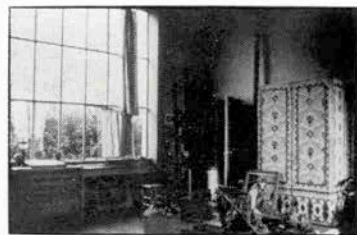


セザンヌ美術館

ヌの構図とそっくりのサント・ピクトワール山が目の前に、近く。手前に木立ちがあり、人家も二、三、点々として。その向こうに悠然とそびえる山。雲が走って山頂は隠れがちだが、セザンヌにはこの山はふるさとの山であった。小さいころから見なれた山。遊学したパリで結局その絵を認められず、失意のうちにこの故郷にひきこもり、描いて描いて、まさに描きまくった山。この山を描き切ることが自分の画業の窮極の目標であると言わんばかりの執着、情熱をもってひたすら取っ組んだ対象だ。

セザンヌは、一八三九年エクス・アン・プロバンスに生まれ、一九〇六年六十七歳で同じこの街に没した。今や「近代絵画の父」といわれる彼だが、生前は最晩年の一時期を除いて全く不遇だった。生まれ故郷で亡くなったのも、世に容れられなかった挙げ句の果てのようなものである。もつとも、だからと言ってエクスの街が彼に温かかったというわけではない。むしろ「天才はふるさとに容れられぬ」と言われるように、画壇的に認められ、その方向の新鮮さに心酔者が出るようになってからも、この街は徹底して彼に冷めたかったようだ。従って、その引っこみ思案的な性格も作用しただろうが、セザンヌは本当に孤独だったようである。

セザンヌ美術館は、エクスの住宅街の一角にある。坂道の途中に建っていて、塀越しにその建て物が見える。もともと彼の住まい（といっても、ここは比較的晩年



セザンヌ美術館内の旧アトリエ

の)だったのを保存して美術館としたものだ。ただし作品が並んでいるわけではない。存命中アトリエとして使っていた広い部屋を、そっくりそのままにしてあって、来館者にふんい気を伝えるのである。イーゼルやパレット、いす、飾り戸棚、脚立、ストープなど。セザンヌがモチーフとして描いた石膏のキュービット像、頭骸骨の模型、陶器類、それにこれは当時のものにはあるまい幾つかのリングが、さもこんな風に置いてあったらと思うるように飾ってある。来館者は余りないようで、しばらくは私とS氏の二人きり。館の女性が一人、つかず離れず私たちをそれとなく監視している。やがてアメリカの若者四人がやってきて、幾分にはやかな雰囲気になった。館の前庭はちようど丘の斜面で、セザンヌがまるで人に向かってするように語りかけたといわれるオリーブの樹々が密生している。彼はこら辺りを散策しながら、考え、悩み、思わず口を開いて樹木に語りかけたのだろう。絵画とは何か……絵とは人間が構成するものだ……私は私の色をもって面を作を調和させ融合させなければ……セザンヌは、戸外の写生に賛成し、自然の光の下での色彩の美しさを認めて印象派に参加した。しかし色彩のみに比重をかけ画面構成の脆弱さを反省しない仲間には飽き足らぬものを感じて、やがて離れて行く。彼はエクスに引っ込んだ。

エクスの街にはグラネ美術館がある。十八世紀創設の由緒ある美術館である。やはりここで生まれたグラネを代表とするプロバンス派の絵を中心に、ギリシャ、ロー



クラネ美術館



ルンフルー美術館

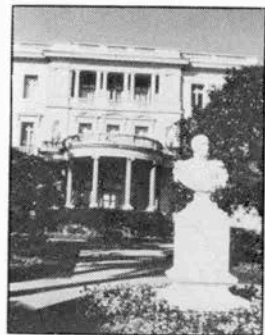


ルンフルー美術館の旧アトリエ

マの古代美術からイタリヤ、フランス、オランダ、ドイツの絵画など、かなり充実した内容

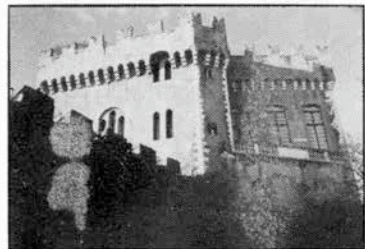
を持つている。ところがちようど館を修理中で館内も半分ほどを閉鎖していたがセザンヌが見当たらないのである。セザンヌ死後十余年たった一九二〇年——といえは、もうセザンヌの評価はかなり高くなっていた時だが、当時のグラネ美術館館長が「わが館は未だセザンヌのようなくだらない作品を所有しないことを誇りにしている」とぶつて心ある人々のひんしゆくを買った、という話を残しているほどの館だけに今なお相当にガシ固なのであろうか。いや現在では逆に余りにも高価になり、動く作品もなく入手したくても出来ないのが実情だろう。ともあれ館員に尋ねてみると、案内してくれた片隅に水彩三点、版画八点、デッサン一点が小さな額に入れられてつつましく列んでいた。せめて館の修理が成った晩には、パリの美術館総局へ配慮を依頼して、印象派美術館から油絵を二、三点でも借用してきたら良さそうに思うのだが。それが郷土の偉大なる先人への礼儀でもあろうに。

南フランス・コートダジュールは、世界的に知られた保養地であり、レジャヤー・ゾーンである。この地方への何度かの往復にいつもパリ空港の待合室で感じたのは、比較的裕福そうな老人の姿の多いことであった。夫婦づれもあれば、片一方がグンと若いカップルもいた。とも



マセナ美術館

かく、空気の明るさも作用してコートダジュールは年とった画家たちにとつても住むに都合のいい地方であった。



カーニエ美術館

ルノワールは一八四一年、リモージュの生まれ。セザンヌより二歳年下だが、神経痛を患ったこともあって五十八歳の時から南仏カーニエに住み、一九一九年、七十八歳で同地に没している。ルノワール記念美術館は、その彼の最後の住まいを一九六〇年に市が買い上げ、ルノワールの業績をたたえるために美術館として開放したものである。広々とした庭園——ここにもセザンヌの旧居同様オリブがいっぱい植わっている——そして居間や画室などが、存命のままに保存してある。

ルノワールの作品といえは、光沢のある艶やかな肌の、ボリユームある肉体を持つ女性像で広く知られているが、彼もいわば印象派の離脱者だ。光と色彩の謳歌をもって印象派に参画したが、女性美の表現に目を据えて遂に独自の方向へ走った。自らがいとおしむものを愛情をこめて描いたその姿勢は、晩年いうことをきかなくなつた右手に筆をしばりつけて描き続けた執念とともに、作品となつた裸婦像から観る人々へ訴えかけてくる。

この美術館には油絵は無く(飾つてあるのは複製)あるのは約十一点の彫刻と写真、書簡などの資料、それに旧アトリエのイーゼル、パレット、車いすなど。初めてここを訪れたのは冬だった。しかし、いかにも南フランスらしい暖かい一日。別に囲いもない、どうやら裏手らしいあたりから樹木の多い敷地内へはいっていくと建て物のそばに華やかな一団がいた。土地の人の結婚式らしい。中心になつている若い二人を囲んで、民族衣装の動きがいかにも美しく映つた。二度目の訪問は一シーズン後の晩秋。どうやらこの時は休館中だったようである。立ち去りたい思いでたずんでみると、枯れ葉を踏む音がして近づいて来たのが使用人らしい若い女性。入れてもらえないだろうか、と垣向こうの彼女に請うと、美術館は閉まつてますよ、と言いながら親切に垣のすみの方を一人通れる

ぐらい開けてくれた。三度目は再びの冬。この日も好天で、広々とした前庭に家族づれらしいグループが何組か見えた。はしゃいで走り回る子供たち。腰を下ろして編み物の手を動かしている女性もいる。ここはいっ来ても絵になる雰囲気だ……。いや、これは全く素人考えたが、ついそんなことを考えさせる環境。

カーニユにはもう一館カーニユ美術館がある。この街ではひとときわ高い丘の上に建っている古城、通常シャト



ルノワール「大・水浴女」マセナ美術館蔵

ー・カーニユと呼ばれているのが同美術館だ。そもそもは十四世紀に要塞として建てられたというが、ルイ十三世のころ（十七世紀前半）典型的な地中海様式の館に改築された。大広間は二階ぶち抜きの高さで、きらびやかな宮廷ムードの天井画が昔日の面影をしのぼせるが、目下はこの部屋も下方にキャンパス地張りの無粋なスクリーンが立って作品陳列場と化している。厳密に言えば二つの美術館の寄り合い世帯で、一つはオリビエ美術館と名付けられ、オリブ栽培を中心とするこの辺りの土地の歴史博物館と呼びながら南フランスに関係ある現代作家の絵の陳列。デュフィ、キスリング、ゴエルグ、セイソールの名が見えたが、残念ながらルノワールは無し。一九五三年のオーブン。

因みに南フランスでルノワール作品に出会おうと思ったら、ニースのマセナ美術館へ行くといい。実はルノワ

ールを三点以上所有している美術館というと世界でもそうザラにあるわけではない。地元フランスでも、それに該当するのはわずかに四館。そのうち三館までがパリ（すでに紹介した印象派、マルモッタ、プチ・パレの各美術館）で、残る一館がニースのマセナである。ところで、ニース所蔵のルノワールの大部分には日本でもすでに約二十五万人の人がお目にかかっている。というのは一九七五年の春、兵庫県立近代美術館でオーブンし秋までに国内六カ所を巡回した「南フランス・ニース美術館展」に列んだルノワールの油絵がここの所蔵品なのである。（同展のルノワール彫刻はカーニユの記念美術館所蔵品）マセナには他にルノワール代表作の一つと目される「大・水浴女」もあって、ルノワール愛好家には欠かせない美術館であろう。

さて、セザンヌとルノワールといえば、ともに近代絵画の巨匠であり、併列して呼ばれることの多い二人である。年齢もほぼ近く、画壇への働きかけも印象派を軸としており、しかもそろってそこから離れて行く。画風こそ違え、二人の友情は永く続いたようだ。もっとも世に認められる点に関しては、セザンヌは大きく遅れをとった。ルノワールの手記によれば、たまさかエクススのセザンヌを訪ねると、非常に気嫌の良かったのが何かのひょうしに急にかんしゃくを爆発させて訳がわからない、といったこともあったらしい。セザンヌのいらだちが、開拓者としての寂しさが、何となく私どもにも伝わってくる気がする。さかしらな人間どもに比べれば、自然は大きい。セザンヌが心の傷を独り癒すのに力を借し、さらに芸術心をあおった南フランスの自然、ルノワールの肉体的障害を乗り越え、モデルの美しさを一層光り輝かせた南フランスの自然。それに、所蔵作品の点で物足りぬとはいえ、作者がそこで呼吸しながら制作に励んだ旧アトリエには単なる美術館とは違う、たまらぬアトモスフェアがある。美術愛好家は南仏へ行くべしである。